

より良い環境を次の世代へ

環境基本計画 ④

「生き物がバランス良く生息する自然環境の保全」

環境基本計画に掲げた目標とする姿を実現するためには、市民や事業者の皆さんと市が協力して、さまざまな取組みを進めていく必要があります。今号からは、計画第4章の取組みの方向を説明します。今回は、生きものがバランス良く生息する自然環境の保全についてです。

《問合せ》コウノトリ共生課環境政策係 ☎21・9017

身近にある山や川・海などの自然は、私たちの生活に多くの恵みをもたらします。その自然との関わりの中で、私たちは自然と折り合いをつけながら暮らしてきました。

また、コウノトリやオオサシヨウウオなど多くの生き

ものも、かつては私たちのすぐ近くの里山や水辺・田んぼに生息していました。そのころの人間との関係は、奥山に住む生きものとは住み分け、里に住む生きものとは共生する暮らし（文化）がありました。しかし、私たちのライフスタイルが変化し、里山が放置され、開発行為で山や水辺の自然が改変され、生きものと人の暮らしのバランスが崩れ、シカなど野生動物による被害も増えています。ブラックバ

スなど外来種による生態系への影響も危惧されます。

コウノトリやオオサシヨウウオなどの生きものが、それぞれ本来の場所で、適正な数で生息できる自然を取り戻し、バランスの良い生態系を保全する必要があります。

○身近な自然に関心を持ち、里山や水辺の保全活動に参加しましょう。

○多様な生きものの生態を学び、生息環境（ビオトープ、エサ場、ねぐらなど）を保全しましょう。

○ペット動物は責任を持って飼育し、外来種は絶対に自然界に放しません。

今年から5月20日を豊岡市「生きもの共生の日」とします。（詳細は17ページ）

環境あれこれ 15

家電リサイクル法

環境に関する問題について、市の取組みなどをシリーズでお知らせします。

《問合せ》生活環境課生活環境係 ☎23・5304

■特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）の制定の経過

平成7年までのわが国の廃棄物処理は、高温多湿の気候

条件、狭い国土などの事情により「燃やして埋める」処理が主流でした。しかし、最終処分場のひつ迫などの廃棄物処理をめぐる状況から、廃棄物の減量とリサイクルが課題となっていました。

そのため、国では、家庭などから排出される一般廃棄物の容積で約6割、重量で約2割強を占める容器包装廃棄物のリサイクルを進めるため、平成7年に容器包装リサイクル法が制定されました。

平成9年から

は、かん・びん、ペットボトルなどのリサイクルが進められ、平



成12年からは、さらに紙製、プラスチック製の容器包装廃棄物についてもリサイクルの対象となりました。

家電リサイクル法は、このような流れを受けて、平成13年4月に施行され、市でも、それに合せて、収集品目の変更を行ってきました。

■なぜ家電リサイクル法では市が回収を行わないのか

家庭から排出される廃棄物は、基本的に市が収集し、処理を行う責任を負っています。ところが、粗大ごみの中には、非常に大型で重いため、他の廃棄物と一緒に収集することが困難であったり、非常に固い部品が含まれているため、ごみ処理施設での破碎が困難であるものが存在します。家電製品は、これに該当するものが多く、また、金属、ガラスなどの有用な資源が多

く含まれるものの、市による処理では、効率的なリサイクルが行えない状況でした。

このため、リサイクルの体制整備、製造業者、小売業者を含む関係者の適切な役割分担、技術、将来展望など、さまざまな観点から検討が行われ、小売業者が引き取り、製造業者等がリサイクルを行う現状の仕組みが作られました。それぞれの役割分担は、排出者（市民）は適正な排出、小売業者は排出者からの引取りと製造業者等への引渡し、製造業者等は引取りとリサイクル（再商品化等）とし、一人ひとりが協力してリサイクルを進めていくものです。

また、その際、排出者は、適正なリサイクル料金を負担することが明記されました。



冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機をリサイクルするときは、生ごみ、かん・びん、衣類などの異物を入れないでください。異物が入っているとリサイクルの障害となります。

「国際生物多様性の日」 記念イベントを開催します

コウノトリの野生復帰プロジェクトなど、地域レベルの生物多様性に向けた取組みを国内外に発信するため、国連が提唱する国際デーの1つの「国際生物多様性の日(5月22日)」記念イベントを開催します。皆さん、ぜひ、参加ください。

コウノトリシンポジウム

日時 5月22日(木)午後1時30分～4時30分

会場 豊岡市民プラザ(アイティ7階)

内容

- ・基調講演 「生物多様性の重要性」(県立人と自然の博物館長 岩槻邦男さん)
- ・基調講演 「地域で取り組む生物多様性の保全」(東京大学大学院教授 鷲谷いづみさん)
- ・記念講演「私、今森光彦が見た人と生きもの」(写真家 今森光彦さん)
- ・地域からの報告や対談、パネル展示など(予定)

入場料 無料

《問合せ》但馬県民局コウノトリ翔る地域づくり担当 ☎26 - 3624

ミュージカル「火の鳥」(劇団わらび座)

生と死を見つめ、生命の連鎖を描く手塚治虫の大作を、ぜひ、ご覧ください。

日時 5月22日(木)午後7時開演(午後6時30分開場)

会場 市民会館文化ホール

入場料 1階前売指定席3,500円、前売自由席3,000円、高校生以下の前売自由席2,000円(当日券は各500円増)

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21 - 9017

5月20日を 「生きもの共生の日」として 制定しました

市では、コウノトリも住める豊かな環境づくりの実現を目指し、生きものとの共生意識の醸成や浸透を一層進め、持続可能な地域づくりを確固たるものにしていくため、放鳥コ



▲昨年、国内の自然界で43年ぶりに誕生したコウノトリのヒナ＝平成19年5月29日撮影、豊岡市百合地(写真提供：県立コウノトリの郷公園)

ウノトリの初のヒナ誕生が確認された日(5月20日)を豊岡市「生きもの共生の日」として制定しました。

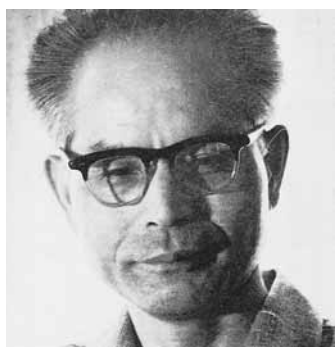
今後、毎年5月20日を中心に、人と生きものとの共生を広く市民の皆さんに普及啓発する取組みを進めていきますが、初年度の平成20年度は、次世代を担う子どもたちを主人公とした「子どもワークショップ」の開催や、子どもたちによる地元の生きもの調査などを実施します。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21 - 9017



仲田光成さん

豊岡市には、現代の書の確立に先駆的な業績を遺した2人の巨匠が生まれている。かな書系の仲田光成・竹野町松本出身と、漢字書系の森田子龍(上陰出身)である。第2次大戦後、書は実用性が刻々と失われるなかで、「美術としての書」の確立を迫られた。いかに「お習字」のイメージから脱却するかであった。仲田光成は、平安古筆を徹底して研究、精習するなかから現代の空間にふさわしいかなを追求し、「はる風や」の与



森田子龍さん

謝蕪村句によつて、いち早く大字かなに新生面を切り拓いた。森田子龍は、世界の美術を席捲した抽象表現主義に連動して「墨美」誌を創刊。理論と制作の両面において、書の現代化に先駆的な役割を果たした。豊岡が、このような偉大な巨匠を生み出したのは、その歴史と風土が類稀な美意識を醸成したからである。この2人は、文化都市豊岡の誇りであろう。



書の美に見る豊岡の巨匠(上) 「豊岡の墨宝」

書の美に見る豊岡の巨匠について、美術評論家の田宮文平さんに評論いただき、3回シリーズで紹介します。

《問合せ》文化振興課 ☎23・1160